

『赤毛のアン』
モンゴメリ 著

1 アカ

この本は、赤い髪の子アンのお話です。アンは孤児でしたが、グリーン・ゲイブルズという家で新しい生活を始めます。アンは想像力が豊かで、おしゃべりが大好きな元気な女の子です。ときどき失敗もしますが、友だちや家族と過ごしながら少しずつ成長していきます。私は、アンの明るくて前向きなところがとてもいいと思いました。読んでいると楽しい気持ちになれる本です。世界でも人気があり、高校生にもおすすめです。

M.N (八千代東)



『悪魔のいる天国』
星 新一 著

2 アノ

タイトルが面白い、中身もおもしろい。ユーモアたっぷりのショートショートなので休み時間の間に一話読めてしまいます。作家の中にも星新一ファンが多く、世代を超えて読まれています。

『ボッコちゃん』や『未来いそっぷ』『かぼちゃの馬車』といった有名な作品集も多いですが、今回は、子どもの頃に読んだことのなかった、去年、タイトルだけで買ってしまったこの本をお勧めします。

M.T (八千代東)



『あと少し、もう少し』
瀬尾 まいこ 著

3 アノ

『あと少し、もう少し』は、中学校最後の駅伝大会に挑む六人の生徒と顧問教師を描いた青春小説。陸上部は弱小で、選手たちも本格的なランナーではなく、勉強や家庭問題、友人関係などそれぞれ悩みを抱えている。顧問の榎井先生は「あと少しだけ頑張れ」と励ましながらチームをまとめ、仲間たちは練習を通して少しずつ心を通わせていく。大会当日、たすきをつなぐ中で一人ひとりが自分の弱さを乗り越え、仲間を思う気持ちや達成感を知って成長していく物語。

A.M (八千代東)



『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』
汐見 夏樹 著

4 アノ

この本は戦時中の日本を舞台にした感動のタイムスリップ恋愛物語です。現代から過去へ迷い込んだ少女と特攻隊員の青年との切なくも温かい交流が心を打ちます。命の尊さや平和の大切さを考えさせられます。映画化もされていてたくさんの人から人気の本です。是非読んでみてください。

OOHIRA (八千代)



『あの星が降る丘で君とまた会いたい』

汐見 夏衛 著

5 アノ

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』の続編で主人公である中2の涼が大人びた同級生百合と出会う所から話が始まる。どんどん百合に惹かれていき告白を決意した直後75年前の儚すぎる恋物語を聞かされてしまう、という感動するお話です。

ARAI (八千代)



『アボンリーへの道』

モンゴメリ 著

6 アボ

20世紀初頭、カナダ、プリンスエドワード島を舞台に「赤毛のアン」シリーズ等のエピソードを巧みに織り込んだ、ユーモラスで感動的な逸話をシーズン7にわたって描いています。一面に白いリンゴの花が咲いている『歓喜の白路』陽の光がキラキラ反射する『きらめく湖水』など『赤毛のアン』を読んで想像していた風景を想像以上の美しさで魅せてくれます。読み終わった後、とてもすがすがしく幸せな気持ちになり、また、赤毛のアン of 原作も読み返してみたい作品です。

OGATA (八千代)



『アリス殺し』

小林 泰三 著

7 アリ

『不思議の国のアリス』を題材にした異色の本格ミステリーです。夢の中のアリスの世界で起きた殺人事件が、現実の出来事と少しずつ重なっていく展開が非常にスリリング。幻想的で可愛らしいはずの世界が、論理的推理によって不気味に崩れていくのが魅力です。ミステリーの緻密さと独特の怖さを同時に味わえる一冊で、普通の推理小説に飽きた人にも強くおすすめです。

KIBA (八千代)



『アルジャーノンに花束を』

ダニエル・キイス 著

8 アル

この物語は、三十二歳で幼児並みの知能しか持たないチャーリーが、脳の手術によって少しずつ天才に近づいていき、昔はできなかった仕事や恋愛などをしていきます。そして、この物語では、チャーリーの一日一日を経過報告として読むことができます。物語の始めは大体がひらがなで書いてありますが、物語が進むにつれ書きかたが変わっていきます。この本は、こんなチャーリーの人生を見る一冊です。

H.Y (八千代東)



『アルジャーノンに花束を』

ダニエル・キイス 著

9 ア

私がおすすめする本は『アルジャーノンに花束を』です。知的障害をもつ主人公チャーリーが、手術によって知能を高めていく物語です。頭が良くなることで見える世界や人との関わりが変わり、幸せとは何か、本当に大切なものは何かを考えさせられます。読み終わったあとも心に残るとても感動できる作品なのでおすすめです。

S.S (八千代東)



『いつもの言葉を哲学する』

吉田 徹也 著

10 イ

日常で何気なく使う言葉に潜む深い意味や哲学的な問いを探究する本です。私たちが普段何気なく発する「ありがとう」「愛してる」「ごめんなさい」などの言葉に隠された真理や価値観を哲学的な観点から考察します。

著者は、言葉が人間の存在や社会の基盤を形成し、自己や他者との関係性を映し出すがみであることを示し、日常の会話が持つ奥深さを再認識させてくれる一冊です。

HIGUCHI (八千代)



『いのちの車窓から』

星野 源 著

11 イ

星野源のエッセイ集「いのちの車窓から」は、私たちの心にそっと寄り添う言葉が詰まった一冊です。特に「ひとりではないということ」という章では、人の弱さや脆さに触れています。自分を卑下することで自分を守ってきた彼の経験など、私自身に重なる話が多くあります。今、生きづらさを感じている人も多くいるでしょう。この一冊を読めば、自分の心で響く言葉がきっとあるでしょう。ぜひ一度、一章だけでもよいので、読んでみてください。

H.K (八千代西)



『折れない心を育てる いのちの授業』

小澤 竹俊 著

12 オレ

著者は、がん治療において緩和ケアを専門に行うドクターです。多くの患者さんとの出会いと別れ(死)の経験から、読者に対して愛あふれる「いのちの授業」を展開します。

若い人たちに向けて、現場で学んだ苦しみとの向き合い方や自尊感情の育み方を届けたい…そんな願いをもとに、この本が企画されたそうです。学校での講演会を重ねている著者が優しく柔らかな文章で「いのち」についての気づきを与えてくれます。

Y.K (八千代西)



『永遠の0』
百田 尚輝 著

13 11

特攻で亡くなった祖父を持つ青年が祖父の戦死の謎を当時の戦友から聴き戦争の不条理さや、戦争に関わった人々の想いに触れる姿を描いた感動作。

人と人との繋がりを感じることができる作品になっています。是非読んでください。

HATAOKA(八千代)



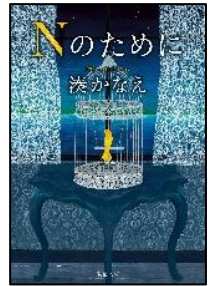
『Nのために』
湊 かなえ 著

14 17

瀬戸内の島で起きた殺人事件を軸に、登場人物たちの「誰かのために」という思いが複雑に絡み合う心理ミステリー。真相に近づくほど見えてくる愛と罪、そして人間の弱さと強さ。緻密な構成と深い人間描写が心を揺さぶり、読み終えた後も余韻が残ります。

事件の謎解きだけでなく、人間の本質に迫る物語で、ページをめくる手が止まらない一冊です。

KAKITA(八千代)



『大人かわいい飾り切り』
ほりえ さちこ 著

15 朴

この本は、普段の食卓やイベントメニューを素敵に、楽しくするため、食材の飾り切りを紹介している図説です。私は、授業で生徒への指導の参考にするなど、私生活にもこの本を参考にして飾り切りを取り入れています。

簡単にできるものが多く、やり方もイラスト付きでとてもわかりやすいので、誰でも楽しく挑戦することができます。ぜひ皆さんもこの本を見つけて飾り切りに挑戦してみてください。

SUZUKI(八千代)



『怪人二十面相』
江戸川 乱歩 著

16 か

この作品は、日本推理小説の金字塔。変装とトリックの名人・怪人二十面相と、名探偵・明智小五郎、少年探偵団が繰り広げる手に汗握る知識比べは、時代を超えて楽しめる冒険ミステリー。子供も大人も夢中になれる面白さです。

KOUNO(八千代)



『かがみの孤城』

辻村 深月 著

17 か

学校に行けなくなった少女が、鏡の中の城で同じように悩みを抱える仲間と出会う物語。ファンタジーなのに、登場人物の気持ちがすごくリアルで、読んでいる自分まで救われるような一冊です。誰かに言えない不安や孤独を抱えたとき、「大丈夫」とそっと寄り添ってくれる物語。

TAKITA (八千代)



『覚悟の決め方』

上原 浩治 著

18 か

軸がぶれずに雑草のように強く生きているのが伝わる。いい加減なわけではなく、最大限の努力準備をしたうえで、自分を信じて覚悟を決める。また様々なアドバイスや指示を受けても最終的な責任は自分が持つ。他責にはしない。この点に共感を覚えた。野球中心の生活を行う為にルーティンをひたすら守り雑念を追い払うストイックな意志の固さ。本書では反骨心にも触れられていた。ジャイアンツに入団した理由と経緯やマスコミに対する当時の疑念も吐露されており、より上原さんの考えが理解できた。

K.M (八千代西)



『風が強く吹いている』

三浦 しをん 著

19 か

竹青荘の個性豊かな住人達、ハイジ、キング、王子、ムサ、神童、ジョータ、ジョージ、ユキ、ニコちゃん。そしてついに10番目に入居した走。そこで住人達を集めてハイジは、この10人で箱根駅伝を目指すと言い出す。素人ばかりの集団でいきなり箱根なんて…。誰もがそう思った。それでも彼らは走って走った。

笑って泣いて圧倒的青春小説がここに!

ABE (八千代)



『家族だから愛したんじゃなくて、愛したのが家族だった+かきたし』

岸田 奈美 著

20 カゾ

タイトルの印象とまるで違って、いい意味で想像を裏切られるエッセイです。お父さんが亡くなったこと、お母さんの生死にかかわる決断をしたこと、ダウン症の弟さんとのやりとり。これらを単なる箇条書きにしたら、「辛かっただろうな」「かわいそうだな」という感想が出てきそうですが、そんなものは消し去られるほどユーモアたっぷりでテンポの良い文章が続きます。読むと自分の気持ちも軽くなる。そんなおすすめの1冊です。

I. K (八千代西)



『カレー移民の謎
日本を制覇する「インネパ」』
室橋 裕和 著

21 か

家の近くにインドカレー屋がある。休日はよくその店でランチメニューを食べようになり、様々なナンの種類を制覇するほどになった。学生時代の家の近くにもインドカレー屋があった。当然、2つの店は離れているのだが、メニューはほぼ一緒に値段も安い。そんな中、この本を見かけて興味を持ち、購入した。本の内容は筆者が日本でインドカレー屋をやっている人たち取材し、インドカレー屋の歴史から日本へ来るネパール人の活動を書いている内容である。

R.M(八千代西)



『監獄に生きる君たちへ』
松村 涼哉 著

22 か

廃屋に閉じ込められた六人の高校生たち。あるのは僅かな食糧と、一通の手紙。

【私を殺した犯人を暴け】差出人は真鶴茜。七年前の花火の夜、ここで死んだ恩人だった。謎の残る不審な事故。だが今更誰が何のために？恐怖の中、脱出のため彼らはあの夜の証言を重ねていく。児童福祉司の茜に救われた過去。

みんなと見た花火の感動。見え隠れする嘘と秘密……この中に犯人がいる？全ての証言が終わる時、衝撃の真実が爆かれる。

NODA(八千代)



『キノの旅』
時雨沢 恵一 著

23 き

この小説は、旅人の「キノ」と、その相棒で乗り物、人の言葉を話す「エルメス」が、様々な国を巡る、1話完結型のファンタジーです。

個性豊かな国や考えさせられる話が多く、さらに1話完結型なので、その日の気分や空いた時間に合わせて、好きな話を読むことができます。

短時間でも長時間でも、本を開けばキノたちと旅を共にできる小説です。

K.S(八千代東)



『君が落とした青空』
櫻 いいよ 著

24 き

すれ違う高校生カップルの切なく温かいラブストーリーで、ある日突然の別れをきっかけに、“もしも”の世界を繰り返す主人公の姿が描かれます。過去と向き合いながら、大切な想いに気づいていく過程に心が揺さぶられました。運命と恋が交差するような涙と希望にあふれた一冊です。

HASHIMOTO(八千代)



『君たちはどう生きるか』

吉野 源三郎 著

25 ｷﾐ

主人公の中学生・コペル君が、友人との関わりや日常の出来事を通じて「人間とは何か」「どう生きるべきか」を考えていく物語です。叔父さんからの手紙が物語の軸となり、哲学的な問いかけや人生の本質について学ぶことができます。自分の生き方を見つめ直したくなる、おすすめの一冊です。ぜひ読んでみてください。

SAKURAI(八千代)



『君の膵臓をたべたい』

住野 よる 著

26 ｷﾐ

余命を宣告された少女と、彼女の秘密を偶然知った少年が紡ぐ、儚く温かな物語です。派手な事件はなく、淡々とした日常の中で交わされる言葉や行動が、命の尊さや人とのつながりを静かに問いかけます。読み終えた後、胸に深い余韻と涙が残り、世界の見え方が変わります。生きる意味を考えたい方にぜひおすすめしたい一冊です。

KIMURA(八千代)



『君の膵臓をたべたい』

住野 よる 著

27 ｷﾐ

明るく自由な少女と、人との関わりを避けて生きる高校生の交流を描いた青春小説です。

読みやすい文章で物語に入り込みやすく、普段あまり本を読まない人でも楽しめます。読み終わりは、人とのつながりや命の大切さについて深く考えさせられ、切なさや温かさが心に残る作品です。高校生にも共感しやすい内容で、最後まで夢中になって読める一冊です。

K.K(八千代東)



『休養学 あなたを疲れから救う』

片野 秀樹 著

28 ｷﾐ

疲労の正体と「攻めの休養」7戦略を、医学心理栄養の視点から科学的に解説。寝るだけではなく、創作交流環境転換を組み合わせる新しい休み方を教えてくれる一冊です。

UMEDA(八千代)



『教室に雨は降らない』

伊岡 瞬 著

29 キヨ

今回久しぶりに学校を舞台にした本を読みました。あまり期待せずに何気なく手に取ったものでしたが、良い意味で期待を裏切ってくれました。小学校の音楽の臨時講師の主人公が児童や他の教員と関わりながら問題を解決していく話です。教師という仕事に就いて42年になりますが、なるほどとか、そういう手もあったかと納得させられることが沢山ありました。読みやすいしおすすめです。

T.H(八千代西)



『ぎんなみ商店街の事件簿』

井上 真偽 著

30 ギン

この本は brother 編と sister 編の二つの話があります。物語はぎんなみ商店街で起きた事件を兄弟姉妹それぞれの視点で事件の真相を知ることができその真相がまるで違うのも面白いポイントです。図書館で借りることができるので見てください。

KAZUTO(八千代)



『薬屋のひとりごと』

日向 夏 著

31 クス

この物語の主人公は花街で薬師をしていた猫猫。そんな彼女は「毒見役」として宮中に仕えることになった。そんな勤め先で起こる様々な難事件を次々に解決していくお話である。この作品は一つ一つの事件がゆっくりと進んでいくので、自分自身も猫猫の立場で事件の真相を考えることが出来るのが面白い点の一つです。

ミステリー系が好きな人や謎解きが好きな人にとっては面白い本なので読んでみてください。

SUZUKI(八千代)



『経綸のとき 小説 三岡八郎』

尾崎 護 著

32 ケイ

12年前、NHKの情報バラエティー番組で坂本龍馬が暗殺直前に書いた手紙が千五百万円と鑑定され話題になった。龍馬は、大政奉還後の新政府財務大臣に三岡八郎を推挙すると記した。「天下の人物といえは西郷隆盛と三岡八郎」と龍馬が喧伝した三岡八郎。財政破綻寸前の福井藩にあっては、出島から絹織物を外国に輸出し財政再建を果たし、明治新政府にあっては「五箇条の御誓文」を起草。「上下心ヲ一ニシテ、盛ニ経綸ヲ行フヘシ」(「五箇条の御誓文」第二条)。いずれNHK大河ドラマの主人公になるであろう三岡八郎、後の由利公正の生涯を元大蔵事務次官・尾崎護が小説にした。

H.W(八千代西)



『決断＝実行』
落合 博満 著

33 ケ

落合博満が中日ドラゴンズ監督時代の経験をもとに、決断とは何かを語る一冊。決めた以上は迷わず実行し、結果の責任を自ら負う姿勢が貫かれている。勝つために必要な非情さ、個を生かす合理的な組織運営、ブレない信念は、野球だけでなく勉強や将来の進路選択にも通じる。リーダーの覚悟と責任を学べる実践的な指針が詰まっている。

KOBAYASHI (八千代)



『傲慢と善良』
辻村 深月 著

34 ゴウ

結婚日前に姿を消した恋人を探し求めるお話です。一番面白いポイントは、一見高校生の私たちには馴染みがない結婚の話題でも、それぞれの心情が交差していくようすをたのしむことができる点にあると思います。

私自身、馴染みがない話題であることを承知でこの本を手に取りましたが、最後に衝撃の事実が明らかになるまで飽きずに読むことができました。皆さんも一度手に取ってみてください！

OOTUBO (八千代)



『傲慢と善良』
辻村 深月 著

35 ゴウ

『傲慢と善良』は、婚約者の失踪をきっかけに、人を愛することや結婚の意味を見つめ直していく物語です。登場人物たちの心の揺れや本音が丁寧に描かれ、自分自身の価値観についても考えさせられます。恋愛小説でありながらミステリー要素もあり、最後まで引き込まれる一冊です。読後には人との向き合い方を改めて考えたくくなります。多くの人に薦めたい一冊です。

H.T (八千代東)



『ゴーゴー・インド』
蔵前 仁一 著

36 ゴー

旅のエッセイを書き続けている筆者のデビュー作。この本をきっかけに筆者はバックパッカーを対象とした旅行雑誌「旅行人」を立ち上げ、その発行のための出版社まで作ってしまう。私がインドを旅したのは本作が発表されるより前だったが、思わず共感してしまう場面の連続だった。名著とされる『深夜特急』よりも、気負いなく、長期旅行者の実態を活写している一冊である。

TANAZAWA (八千代)



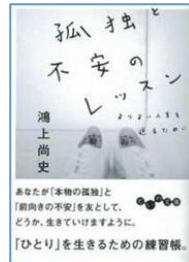
『孤独と不安のレッスン』

鴻上 尚史 著

37 コト

鴻上尚史さんの「コミュニケーションは技術だ」という教材をおぼえていますか。彼は事象の捉え方が独特です。「孤独」であることと、「友人がいないこと」は不幸か。または、悪いことか、望ましくないことか。私自身「一人好き」で、友人はいても単独行動を好むので、鴻上さんのこの本は私に確信を与えてくれました。一緒に行動する友人がいなくても、自身の価値観を貫き、周囲のクラスメートに認められていた生徒が、過去に何人かいたことを、今私は思い出しています。

M.A(八千代西)



『5分後に意外な結末』

桃戸 ハル 著

38 コト

短いお話がたくさん入っている本です。最初は普通のお話だと思って読んでいても、最後に予想していなかった結末になるので、とても驚きます。私は、本をあまり読まないけれど、この本は一話が短くて読みやすかったです。特に、最後のどんでん返しが印象に残りました。続きを読みたくなるような本だと思いました。とてもおすすめな本です。ぜひ読んでみてください。

K.H(八千代東)



『コンビニ人間』

村田 沙耶香 著

39 コト

コンビニで働くことに安心と役割を見いだす女性、古倉恵子の物語。社会が当たり前とする結婚や仕事の価値観に違和感を覚えながらも、彼女は自分なりの「普通」を守って生きている。淡々とした日々の中で描かれるのは常識とは何か、人はどう生きるべきかという問い。読む人自身の生き方を静かに見つめ直させる一冊。

JINBO(八千代)



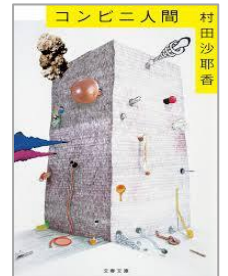
『コンビニ人間』

村田 沙耶香 著

40 コト

『コンビニ人間』のおすすめポイントは、「普通」に合わせることにについて考えさせられるところです。主人公はコンビニで働くことで安心を感じていますが、周りからは“普通の生き方”を求められます。高校生でも読みやすい文章で、人間関係や周囲の目に悩んだことがある人には共感しやすい作品です。短めなので読書が苦手でも読み切りやすく、読み終わったあとに自分の考え方を見直したくなる本です。

S.T(八千代東)



『最後まで行く』

ひずき 優 著

41 サイ

危篤の母のもとへ向かうために、工藤祐司は酒気帯で車を飛ばしていた。刑事でありながら、裏金をもらっていたのがマスコミにリークされた事実も彼を焦らせる。極度の精神状態の時、男をはねてしまい、ひき逃げという罪まで背負うはめに。

死体隠し、裏金のもみ消し、彼を追うエリート警察官・矢崎とのひりつく駆け引きが見どころです。是非読んでみてください！

HORIE (八千代)



『さるのこしかけ』

さくら ももこ 著

42 丸

『さるのこしかけ』という作品は、作者さくらももこさん本人の日常や旅行体験を書いたエッセイ集です。台湾旅行の珍道中やインド旅行の珍道中などの短編集が書いてあり、『ちびまる子ちゃん』をそのまま大人向けにしたような作品です。読んでいてとても面白くて笑えるし、読んだあとと少しだけ気が楽になる本です。ぜひ読んでみてほしいと思いました。

H.S (八千代東)



『下町ロケット』

池井戸 潤 著

43 シタ

主人公は優秀なエンジニアでしたが、父親の死をきっかけに、町工場の経営を引き継ぎます。特許を巡る争いや、大手企業との競争に加え、資金繰りや従業員との問題など、次々と困難が襲い掛かります。その中で、主人公はどのように立ち向かい、仲間と共にどのようにして夢を叶えようとするのかが、この物語の見どころです。

諦めないことの大切さを教えてくれる勇気の出る作品です。

KOZIMA (八千代)



『死神の精度』

伊坂 幸太郎 著

44 シニ

あなたがもし、雨の中、千葉という名前の音楽好きの男性に出会ったら。そして彼が「死」に関する質問を投げかけてきたら。十中八九、彼は死神です。この短編集の主人公である死神に出会った登場人物は7日後に死ぬ運命にあります。死神は彼らに近づき、死にふさわしいか調査する。淡々と描かれた感情に、皮肉と温かさが同居する人間ドラマです。

ITO (八千代)



『柴犬ぽんちゃん、今日もわが道を行く』

犬山 スケッチ 著

45 シバ

柴犬と柴犬飼い主の日常のあるあるが、ほんわかしたタッチで描かれた、柴犬好きにはたまらない逸品。この手のマンガでは、ペットの生死に関する作者の主張が描かれていることがよくあり、読み進めていく中で気分が重苦しくなるが、このマンガではそのような内容がなく、日常の何気ない柴犬の行動や表情、それに対する飼い主の対応が描かれていて、肩ひじ張らず読むことができ、好感が持てる。

H.S (八千代東)



『自分の運命に楯を突け』

岡本 太郎 著

46 ジブ

岡本太郎の作品が好きな人も、少し苦手だと感じる人も、この本を読めばまるで岡本太郎本人が語りかけてくるような感覚を味わえるはずです。

今年、彼の造形や思想がウルトラマンの怪獣のように暴れ出す映像作品「タローマン」がついに映画化されました。こんなでたらめな作品を、誰が予想できたでしょうか。けれども、この映画を作り上げたスタッフたちは、きっと岡本太郎の言葉に背中を押されながら、創作に奮闘したのだと思います。気になった方は、ぜひご覧ください。「なんでもいいからまずやってみる。それだけなんだよ。」そう岡本太郎も言っていた。

S.N(八千代西)



『15歳のテロリスト』

松村 諒哉 著

47 ジュ

爆弾予告をした少年と事件に巻き込まれる人々の視点から、SNS社会の怖さや「正義」とは何かを問かける物語です。読み進めるほど真実が見えなくなり、自分ならどうするかを考えさせられます。現代社会についても深く考えさせられ、中高生にも読みやすく最後まで結末が分からず、緊張感のある作品ですのでぜひ読んでみてください。

A.W (八千代東)



『17歳のときに知りたかった受験のこと、人生のこと』

びーやま 著

48 ジュ

この本は、受験を「合否」だけで終わらせず、その先の人生まで考える視点を与えてくれます。効率的な勉強法や大学選びの考え方だけでなく、失敗や遠回りの価値、不安との向き合い方も丁寧に語られています。将来に迷う17歳が「自分で選ぶ力」を身につけるための一冊です。

KUMASAKA (八千代)



『柔道にはなぜ黒帯があるの?』

船井 広則(他編)

49 ジュ

この本には、柔道、剣道、相撲、なぎなたの 4 種類について、その起こりから現代までの発展の歴史が書かれています。武道は教育の中にも採用され、その意義が認められています。単に心身の鍛錬だけが目的ではなく、人の意欲を引き出す方法が、武道ならではの視点で書かれています。読んでみると、日常生活の中によくあるちょっとした習慣が、武道の所作に由来していることなどもわかります。

I. K (八千代西)



『重力ピエロ』

伊坂 幸太郎 著

50 ジュ

「春が 2 階から落ちてきた」という 1 文から始まる伊坂幸太郎さんの作品です。泉水と春の兄弟が、街の落書きと連続放火事件の謎を迫っていき、意外な真相にたどり着きます。シリアスな内容を扱っているのに、それを感じさせないような登場人物達の生き方や言葉がとても好きです。映画化もされているので観たことがある人もいるかもしれませんが、ぜひ一度小説を読んでみて欲しいです。

R. Y (八千代西)



『重力ピエロ』

伊坂 幸太郎 著

51 ジュ

この本は、連続放火事件をきっかけに家族の秘密や過去が明らかになっていく物語です。ミステリー要素がありつつ、家族の優しさや人との絆についても深く考えさせられる作品です。特に、登場人物の会話に独特のテンポがあり、重いテーマでも読みやすく、また、最後にかけて回収される伏線が読んでいて、とても面白い作品です。小説ということで、敷居が高いですが、読んでみてください。

H. U (八千代東)



『十角館の殺人』

綾辻 行人 著

52 ジュ

角島にそびえたつ十角形の奇妙な館を訪れたミステリー研の七人。しかし、館を建てた建築家の中村青司は十角館の隣の青屋敷と共に半年前に焼け死んだ。炎上した青屋敷にて焼死していた。そんな十角館でのんびりと過ごす七人に、恐ろしい連続殺人が襲いかかる。その頃本土では、死んだはずの中村青司から突然手紙が送られてきて—。

あの一行ですべてがひっくり返る!綾辻ミステリーの原点が今ここに。

KAREN (八千代)



『十角館の殺人』

綾辻 行人 著

53 ジュ

惨劇の舞台となるのは、九州大分県辺りの海上に浮かぶ小さな島「角島」。角島は半年前に事件が起きていました。そこに渡るのはある大学の推理小説研究会のメンバー7人。一週間滞在する予定でした。次に船が来るのは一週間後、島からの連絡手段、なし。彼ら7人は、屋敷の離れであった十角形の館、通称「十角館」で寝泊まりをすることになるのですが、そこから彼らが一人、また一人と殺されていくのです。本の最後の方の一文もお見逃しなく!

TAIGA (八千代)



『地雷グリコ』

青崎 有吾 著

54 ジラ

この本は連作短編集で文化祭の屋台の場所取りや出禁を取り消してもらうためにゲームで勝負するお話です。そのゲームの内容はグリコやじゃんけんやポーカーと有名なものばかりですが、そこに特殊なルールを追加して勝負します。

追加ルールは少し複雑ですが、戦略の幅が大きく変わり、中盤で感じていた違和感がラストで明かされすっきりするのがこの本の醍醐味だと思います。短編で読みやすいと思うのでぜひ読んでみてください。

SATO (八千代)



『しろいろの街の、その骨の体温の』

村田 沙耶香 著

55 シ

普通に見える街で暮らす主人公が、「自分って何者なんだろう」と悩みながら成長していく物語です。

日常の中のちょっとした違和感とか、人間関係の息苦しさがすぐリアルだと思う場面が多いです。重すぎないのに読みごたえもあって、気づいたら一気に読んでいました。「普通ってなんだろう？」ってふと考えたことがある人に、特におすすめの一冊です。

SHIRATO



『新・臆病者のための株入門』

橘 玲 著

56 シ

著者は言う。「親本から20年ちかくたってそのまま読んでもらえるのは、本書がファイナンス理論の標準的な説明だからだ。」この一冊を読めば、金融リテラシーの基礎は万全である。

著者は「株式投資はギャンブルである。」と断言する。評者自身はこの本をきっかけに株式投資を始めたが、全くその通りである。この本を読んでから、経済・金融関連のニュースに関心が持てるようになった。

S.M (八千代東)



『新おとめ六法』

上谷 さくら 著

57 シ

生活をしていく中で思いがけないトラブルはつきものです。それは暮らしのルールや家庭のもめごと、恋愛トラブルから職場トラブルまで幅広くあります。

本書では、憲法・刑法・民法といった六法の中からトラブルに対応した法律が載っています。法律というと難しく感じますが、わかりやすく説明してくれています。自分を守ることができるのは自分だけです。ぜひ、本書を読んで知識を身に付けて下さい。

M.M(八千代西)



『新謎解きはディナーのあとで』

東川 篤哉 著

58 シ

今作のメインキャラは、財界に大きな影響力を持つ名門財閥グループ「宝生グループ」の一人娘で、その正体を隠し刑事として働く「宝生麗子」と、彼女に仕える毒舌執事「影山」。次々と起こる不可解な事件を追う麗子。その推理をバツサリ斬る影山。会話や何気ないシーンも目が離せない！あなたは五つの奇妙な事件を影山より速く見破れるか？

K.I(八千代東)



『吹部！』

赤澤 竜也 著

59 スイ

私は中学二年生の時に『吹部！』という本に出会いました。この本は、吹奏楽部で頑張る高校生の青春を描いた物語です。

部活での悩みや仲間との関わり、本番に向けて努力するリアルが読んでいてとても共感する部分がたくさんありました。特に、コンクールでの一人一人が音楽と真剣に向き合っている姿がとても共感できる部分でした。

ぜひ、夏に向けて部活を頑張りたい人、日々の部活動を真剣に取り組みたいと思っている人にオススメです。

M.Y(八千代東)



『すずめの戸締り』

新海 誠 著

60 スイ

災いをもたらす扉を閉める旅に出た少女、すずめの成長を描いた物語です。九州で出会った青年、草太とともに、日本各地の廃墟を巡りながら、人々の悲しみや震災の記憶とも向き合っていきます。美しい風景描写と心に響く言葉が魅力で、家族や命の大切さを改めて考えさせられる作品です。冒険と感動が詰まった、幅広い世代におすすめの小説です。

A.A(八千代東)



『世界一わかりやすい英文法の授業』

関 正生 著

中学1年生で Good morning を「おはよう」と暗記させられた経験は誰にでもあるはず。直訳すると「よい朝」なのに。その経験から英語＝暗記と思われがちになる。しかし、英語も我々日本人が普段使っている日本語と同じ言語である。「ネイティブがそういうから」の一言で片付けられた表現や文法も、英語圏の人々の歴史や文化、思想が沢山詰まっている。それを誰もが納得できる形に説明してあるのがこの本である。

D.Y(八千代西)



61 ㊦

「漱石の前期三部作・後期三部作」

夏目 漱石 著

2年生になると授業で漱石の『ころ』を学びます。今から漱石の精神の変遷をたどっておくと理解が深まります。図書館には前期三部作『三四郎』『それから』『門』、後期三部作『彼岸過迄』『行人』『ころ』が全て揃っています。順に追って読むことで、漱石が描く「自己」と「エゴイズム」の葛藤が深化し、「先生」の抱く深い孤独の理由がより鮮明に見えてくるはず。物語の点と線が繋がる驚きを体験してください。これが高校生の「読書」です。

TOKUNAGA(八千代)



62 ナ

『闘う君の唄を』

中山 七里 著

米幼稚園教諭の主人公の奮闘記。モンスターペアレンツと対立しながらも、子供たちの心をつかみ、困難を乗り越えていく痛快な物語。

んっ? そんな話に興味はない! ミステリーだと思って買ったのに! しかし、中盤から物語は急展開。主人公はある「事実」を隠してこの幼稚園で働いていた。そして最後に「真実」が明かされる。この作者らしく新味のミステリーでした。

T.N(八千代西)



63 ナ

『地球幼年期の終わり』

アーサー・C・クラーク 著

人類がオーバーロードという上位存在を認知し、オーバーマインドという上位存在に昇華する様子を描いたものです。そこそこの英米作品ということもあり、フロムゲーのように非常に難解な物語のため読む人を選ぶ作品ですが、ハマればとことんハマる作品ですのでぜひ一度読んでみてください。

KAWASAKI(八千代)



64 ㊦

『ツナグ』
辻村 深月 著

65 ツ

一生に一度だけ、死者との再会を叶えてくれるという「使者(ツナグ)」。親友に抱いた嫉妬心に苛まれる女子高生、失踪した婚約者を待ち続ける会社員など。ツナグの仲介のもと再会した生者と死者が一晩だけ語り合います。

双方の人間らしい生き生きとした感情のぶつかり合いが特徴で、それぞれの後悔から生命の尊さを感じられる作品です。

ITO (八千代)



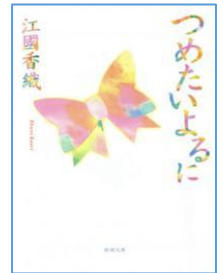
『つめたいよるに』
江國 香織 著

66 ツメ

21篇の短篇小説集。生きている人、死んでいる人、子供も大人も、若者も老人も、人間も幽霊も、そして〇〇も(ネタバレになるので伏せておきます)…様々な形の出会いと別れと関わりあいの物語。ちょっと不思議で、だけど読んでいくうちにひきこまれて、気がつくとながら涙がこみ上げてくるような。読み終わった後に何とも言えない温かくてさわやかな気持ちになれます。

一話あたり約10ページちょっとの、ほんとうに短い小説集なので、途中で飽きることなく、ちゃんと読みます!!一話一話、変化に富んだ登場人物たちが様々なドラマを展開してくれる短篇集。ぜひ読んでみてください。

R.I (八千代西)



『テレキャスタービーボーイ』
すりい 著

67 テ

すりいさんが手掛ける超ヒット楽曲が元になっています。周囲の環境に馴染めずにいる主人公の悩みや葛藤が丁寧に描かれた作品です。

今悩みがある人や他人と違うことへ不安を抱いている人に読んでほしい作品です。またテレキャスタービーボーイは素晴らしい楽曲なので聴いてみてください。

FUZIMURA (八千代)



『天国旅行』
三浦 しをん 著

68 テン

どうしてか時に死を望む人もいる。『心中』をテーマに生きる意味や、人の心の奥深くにある思いを描いた7つの短編集。樹海での巡り合わせを描いた『森の奥』、死者からの『遺言』の重み、『初盆の客』が語る家族の過去、身近な人の衝撃的な死の謎を追及する『炎』、幽霊になった恋人との不思議な共同生活を描く『星くずドライブ』など。

死の淵で人は何を思うのでしょうか。

KATO (八千代)



『同志少女よ敵を撃て』

逢坂 冬馬 著

69 ドウ

第二次世界大戦下のソ連。村を奪われた少女セラフィマは、女性だけの狙撃兵部隊に入隊し復讐と生存の狭間で揺れ動く。戦場で会う仲間や敵との関係を通して、正義とは何かを鋭く問いかける。

実話に着想を得た描写も胸を打つ、重厚な成長と戦争小説。

HOSOYA (八千代)



『トーアの魔法使い』

淡雪 みさ 著

70 トー

この本の主人公はミア。ミアは、国内最高峰の魔法学校に落ちてしまい、更には記憶喪失になってしまいます。ミアは記憶喪失の謎を解くため、学内に潜入し、学園の主席集団『オペラ』を目指すこととなる。そのきっかけとなったのは、その『オペラ』の一人であるブルーノの魔法。果たして、ミアの学園生活はどうなるのでしょうか。そして、トーアの魔法使いとは、いったい何のことなのか。恋あり魔法ありトラブルありの学園ファンタジー。是非、読んで下さい！

ANZU (八千代)



『ナースの卯月に視えるもの』

秋谷 りんこ 著

71 ナー

看護師の卯月には、死を待つ患者の傍らに彷徨う「未練を抱えた魂が視える。彼女は生者にも死者にも気づかれないまま、その魂の願いを叶え、命の終わりに寄り添う物語となっています。「看護師」という、科学と理性に基づいて命を救う職業と、「視える」という非科学的でスピリチュアルな能力の矛盾（ギャップ）が、非常にドラマチックです。この矛盾が、卯月が秘密を抱えて葛藤する様子や、医療の限界と霊的な救済が交差する瞬間に、深い物語を生み出していると思いました。

SASAKI (八千代)



『夏と花火と私の死体』

乙一 著

72 ナツ

かごめかごめ 籠の中の鳥は
いついつ出やる 夜明けの晩に
鶴と亀と滑った 後ろの正面だあれ？

Q. 皆さんは、殺してしまった友達をどこに隠しますか？ 家？それとも、それとも捨てますか？？ 周りの大人を頼る、なんて人も居るかもしれませんね

この作品は、殺された死体視点で進む異色作です。乙一さんらしい美しく奇麗な文章の中で、死体を隠し続ける兄妹の壊れた倫理観と大人にバレないように隠し続ける緊迫感が素晴らしい小説です。読後には何とも言えない深い余韻が残ります。

S.T (八千代東)



『成瀬は天下を取りに行く』

宮島 未奈 著

「わたしはこの夏を西武にささげようと思う」とはじまり、主人公が十四歳の女子であることが明らかになる。引き込まれるように読み進めていく。成瀬の生き方に引き込まれていく。自分には周りを気にせずやり抜くことはできそうもないと、さみしくなったりするが、読み終わると心地の良い自分がいる。

本屋大賞を受賞し、滋賀県大津市膳所が舞台となり、琵琶湖の観光船ミシガンをも有名にした。元気をくれる一冊です。

H.Y(八千代西)



73 丸

『汝、星のごとく』

風良 ゆう 著

私はこの本を読み、人とのつながりや、自分らしく生きることの難しさを感じました。登場人物の気持ちがすごくりアルで、読んでいて何度も考えさせられました。特に、夢と現実の間で苦しむ姿が印象に残りました。この本は恋愛だけでなく、将来や生き方に悩んでいる人におすすめです。読み終わったあとも心に残る作品です。ぜひ読んでみてください。

H.A (八千代東)



74 ナ

『二木先生』

夏木 志朋 著

クラスで孤立する広一と、だれからも慕われる二木先生。

けれど彼の秘密を知った瞬間、二人の関係はスリル満点に動き出します。先が気になって一気に読んでしまう展開と、人間の本音をえぐる描写が魅力。高校生だからこそ読んでほしい、刺激的で考えさせられる一冊です。

SAYUKI(八千代)



75 ニ

『人間失格』

太宰 治 著

『人間失格』は、主人公・大庭葉蔵が他人との関わりに強い不安を抱えながら、周囲に本心を隠して道化を演じて生きる姿を描いた作品です。

孤独や自己否定、社会への不適応を通して、人間の弱さや心の闇が繊細かつ鋭く表現されています。太宰治自身の人生を重ねたような告白的な文体も特徴で、現在でも多く共感されている作品です。

Y.K(八千代東)



76 ニ

『猫を処方いたします。』

石田 祥 著

77 ね

病院に行ったら処方されるのは、もちろん薬です。しかし、この本で処方されるのは猫。様々な事情で悩みを抱える人々が、風の噂で聞いた「中京こころのびょういん」。怪しげなビルの中にある、住所もでたらめな病院。「そこらへんの薬よりも、猫のほうがよく効く」というセリフ通り、猫を処方された人々がだんだんと悩みが解決していく様子が読んでいて面白いです。読み進めていくうちに、自分も猫を飼いたくなるような一冊です。

T.T (八千代西)



『バカの壁』

養老 孟司 著

78 バカ

この本は 2003 年に刊行され、2021 年 11 月には発行部数が 450 万部を突破したと言われている養老孟司先生の代表作です。当時流行語にもなりました。私たちは、自分の知りたいことのみ耳に入れ、知りたくないことには始めから情報を遮断してしまっている。ここに一種の壁があるという内容です。この本が刊行されてから 20 年以上経ちましたが、まさに今現在を表しているようです。私たちはこの本で何度も勉強するべきかと思います。

T.Y (八千代西)



『20 歳のソウル』

中井 由梨子 著

79 ハ

市立船橋高校、野球応援の魔曲の「市船ソウル」を作曲した、市船吹奏楽部員の一人の本当にあった物語です。主人公の生きた証と、彼を愛する家族や恋人、吹奏楽部の仲間との絆や青春に胸打たれる一冊です。生ききる尊さと生かされる大切さを感じ、力をもらえると思います。映画化もしているので、是非手に取って読んでほしいです。

Y.M (八千代西)



『ハリー・ポッターと呪いの子』

J.K.ローリング 著

80 ハリ

この本はハリー・ポッターの最終話の 19 年後、ハリーたちの子ども世代が主人公の物語です。ハリーの息子アルバスと、ドラコ・マルフォイの息子、スコーピウスが出会い、過去へ戻ったことによって歴史が変わり、闇の帝王ヴォルデモート卿が復活してしまいます。変化した歴史を前に 2 人はどう立ち向かうのか、また、親たちの気持ちにどのような変化が起こるのか。是非一度見てみてください。

KUWANO (八千代)



『ひとりずもう』

さくら ももこ 著

81 ヒ

この本は、人気漫画『ちびまる子ちゃん』の作者であるさくらももこさんが、自身の青春時代を振り返って書いたエッセイです。悩みながらも自分らしく生きようとする姿を飾らず正直に、そしてユーモアたっぷりに描いています。背中を押してくれる一冊です。こんな人にオススメです。自分の将来や進路に悩んでいる人。友達や家族との関係にモヤモヤしている人。ちょっと疲れて笑いたい人。私は妻に薦められて読みました(笑)

Y.N(八千代西)



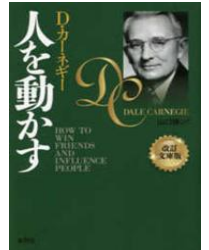
『人を動かす』

カーネギー 著

82 ヒ

約90年前の1936年に原書が発行された、現代の古典ともいえる本ですが、今でも人生を豊かにするヒントを与えてくれます。邦題「人を動かす」よりも原題「How to Win Friends…」のほうが内容が良く伝わりますが、例えば目次の「人に好かれる六原則」などの見出しを読むだけでも参考になります。本校図書室や街の図書館にもある本ですので、手に取って目次だけでも目を通してみてください。

Y.H(八千代西)



『火の鳥 いのちの物語』

手塚治虫 作

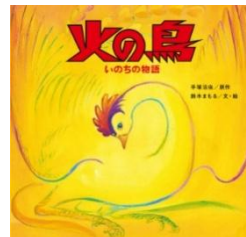
鈴木まもる 文・絵

83 ヒ

生命の循環を柔らかな絵と温かい言葉で描かれていて、不思議な火の鳥を通して生きていくことの意味、大切さを改めて感じました。

原作の手塚治虫先生の『火の鳥』とはまた違い、全世代の人の心に響く、一生持っておきたい一冊だと思いました。将来のことや人間関係など、さまざまな悩みを抱えがちな高校生の時期、ぜひ手に取って読んでほしい作品です。

J.N(八千代東)



『火の鳥(鳳凰編)』

手塚 治虫 著

84 ヒ

つたない感想ですが、この世界の広さに比べれば自分の悩みなんてちっぽけなものだと思える一冊でした。本を読むだけで、世界の広さ、世界の美しさを感じられるとは思えませんでした、いい意味で裏切られました。

この本を読んだ後に見上げる空は本当に絶景です。気になる方はぜひ手に取ってみてください。

H.E(八千代西)



『暇と退屈の倫理学』
國分 功一郎 著

85 ヒマ

「暇」や「退屈」という誰もが感じる感情を哲学の視点から深く考える一冊です。スマホや娯楽に囲まれた現代で、なぜ私たちは退屈を恐れるのか、その理由をわかりやすく解き明かしてくれます。自分の時間との向き合い方を見直したくなる本です。

OOSAKI (八千代)



『氷菓』
米澤 穂信 著

86 ヒ

この小説は青春ミステリーである。主人公である高校 1 年の折木奉太郎は、なりゆきで入部した古典部の仲間に依頼され、日常に潜む不思議な謎を次々と解き明かしていくことになる。自称省エネ少年の主人公が、個性豊かな登場人物との関わりの中で灰色の高校生活が変わっていきそうな、一見小さな謎解きがまた面白く、気になってしまいどんどん読み進められる一冊。この本は古典部シリーズの第一弾、全 6 冊。気になる人は続きも是非。

R.S (八千代西)



『プチ哲学』
佐藤 雅彦 著

87 プチ

頭のいい人ってどんなイメージがありますか。難しいことを誰にでも分かるように簡単に説明できるタイプと、簡単なことをとても深く掘り下げることができるタイプとがいます。この本はその両方ができるタイプです。身の回りにあるちょっと気になる出来事を、不変、無垢、粹組み、アフオーダンスなどの言葉を手掛かりに、「ちょっと深くだけ考えてみる」ことが本書の内容です。筆者の書く絵がとても可愛いものもポイントです。

Y.H (八千代西)



『舟を編む』
三浦 しをん 著

88 ね

果てしない言葉の海から言葉を編み、辞書という舟にのせ正しい言葉を届ける物語。私たちが日常で当たり前のように使っている言葉には一つ一つ意味が込められている。その意味を見つめ直すことや深さに気づかされる。主人公が自分の弱みを強みとし武器に変え、長い年月をかけながら、言葉に向かう姿勢にはとても心をうたれた。言葉というものは、人と人をつなぐ素敵なものなのだと教えてくれる一冊だ。

R.Y (八千代東)



『墨龍賦』
葉室 麟 著

89 ボク

武家に生まれたが禅門に入り東福寺で修業し、狩野派を学んだ絵師、海北友松が主人公の小説です。友松は六十歳を過ぎてからの活躍が際立つ遅咲きの画家ですが、本能寺の変後に、秀吉軍に斬首された友人、斎藤利光(明智光秀の重臣)の首を奪い返し、葬ったとされています。本作で友松は迷いなく絵の道に突き進む画家ではなく、武士に戻りたくと戻れず世の転変に戸惑いながら、生きる上での心構えの美しさを考え続けた男として描かれています。向かう方向が定まらず葛藤がある人にお勧めです。

W.S(八千代西)



『母性』
湊 かなえ 著

90 ボセ

女子高生の転落死を端緒に、母と娘それぞれの独白を通して「母性」の正体を鋭く描いたミステリーです。母になりきれない母と、その愛を渴望する娘。同じ出来事でも二人の視点では全く異なる景色が浮かび上がり、読者を翻弄します。究極の愛か、それとも狂気か。母娘の絆の危うさを抉り出す一冊です。

YOKOYAMA(八千代)

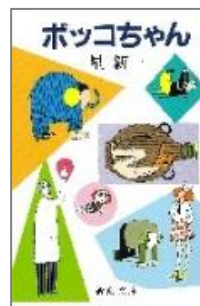


『ボッコちゃん』
星 新一 著

91 ボツ

この本にはショートショートの第一人者である日本を代表するSF作家の星新一さんの傑作50編が収録されています。知的なユーモアと鋭い風刺で意外な結末に導かれていて、一つ一つ読んでいて飽きない本になっています。一つの話が5分ほどで読めるので、空いた時間に読んでみてほしいおすすめの本です。

OZIRO(八千代)



『坊っちゃん』
夏目 漱石 著

92 ボツ

正義感が強く少し短気な青年教師が、地方の中学で大人のずるさや理不尽に立ち向かう物語です。テンポのよい文章で読みやすく、思わず笑ってしまう場面も多いのが魅力です。昔の話ですが考え方は今の時代にも通じ、学校生活や人間関係と重ねて読むことができます。感想文にも使いやすく、高校生の今だからこそ共感しやすいです。

IWASAKI(八千代)



『ポプラの秋』

湯本 香樹実 著

93 ポプ

父親を亡くした 6 歳の少女が、母とともに大きなポプラの木のあるアパートへ引っ越すところから始まります。少女にとって、突然父がいなくなることは、世界が一変してしまうほどの大きな出来事でした。引っ込み思案で、自分の思いをうまく言葉にできない彼女は、心を閉ざし、やがて体調も崩してしまいます。そんな少女の前に現れたのが、アパートの大家であるおばあさんです。無口でぶっきらぼうな彼女とのふれ合いの中で、少女は少しずつ心を開いていきます。おばあさんと交わした「秘密の約束」。物語の後半では、大人になった少女が父の死の真相や、おばあさんの過去を知る場面があります。すべてを知ったとき、私の胸にも小さな温かさが広がりました。

この物語を通して、「今を生きている人」をもっと大切にしようと思いました。当たり前のようにそばにいる家族や友だちが、実はかけがえのない存在なのだと、あらためて気づかされました。

K.T(八千代西)



『今日は、お日柄もよく』

原田 マハ 著

94 ホン

スピーチライターという知られざる職業に光を当てた小説。二ノ宮こと葉は想いを寄せていた幼馴染の結婚式に最悪な気分に参加していた。ところがその結婚式で衝撃的なスピーチに出会う。そこからこと葉はスピーチの師匠に弟子入りし、結婚式のスピーチだけでなく、選挙の結果を左右する政治のスピーチを書くことに。聴衆を引き付ける言葉の力の大きさに驚き、本文中の素晴らしいスピーチに涙しました。ぜひ読んでほしい一冊です。

M.M(八千代西)



『本好きの下剋上』

～司書になるためには手段を選んでいられません～

香月 美夜 著

95 ホン

この本は本が大好きな少女が死後に生まれ変わった中世ヨーロッパ風のファンタジー世界で、現代知識を駆使して本づくりを目指していく物語です。「本がないなら作ればいい!」是非皆さんも手に取って読んでみてください!

ARAKAWA(八千代)



『本当の自由を手に入れる お金の大学』

両@リベ大学長 著

96 ホン

「貯める、稼ぐ、増やす、守る、使う」お金にまつわる5つの力を鍛えるための実践的なガイドブック。

多くの人が自由になれないのは、お金がないからです。我々の生きる資本主義社会において、これはゆるぎない残酷な真実。この本は、皆さんが日常的に感じている「お金の悩み」を解決するための知恵がぎゅぎゅ詰まった一冊です。お金に縛られない自由な生活へ向けて一歩を踏み出した方は是非読んでみてください。

K.K(八千代西)



『本当の自由を手に入れるお金の大学』

両@リベ大学長 著

97 枳

お金について具体的に考えたのは社会人になってから。今では勉強して将来に備えるようになったが、まだ出来ることがある。そう感じて最近手に取ったのが本書。なぜ今まで読まなかったのか、大後悔…。日本の経済は停滞し、ますます現金の価値は目減りしていく。ただ貯蓄をするだけでは経済的自由を得られない。社会人になる前に、本書でマネーリテラシーを身に付けるべし！

YAMAMOTO (八千代)



『マスカレード・ホテル』

東野 圭吾 著

98 マ

事件を解決するためにホテルに潜入することになった刑事と優秀なホテル従業員が手を組み、事件の真相に迫ります。最後まで犯人がわからない展開や、後半の伏線回収が魅力的な作品です。

シリーズ化されており、5作品出版されています。ドキドキの展開を楽しみたい方にぜひおすすめです。

KAZIURA (八千代)



『また、同じ夢を見ていた』

住野 よる 著

99 マ

本をたくさん読む少女の物語です。この物語は、子どもの視点で語られており、読者はなつかしい気持ちで読み進めることができます。幸せとは何だろうかという答えの出ない問いを主人公の小柳奈ノ花の物語とともに、考えることができます。読みやすく暖か味があり、読書をあまりしない人にもおすすめです。1冊です。ぜひ、読んでみてはいかがでしょうか。

R.T (八千代東)



『みかづき』

森 絵都 著

100 ミ

舞台は昭和 36 年の八千代台、小学校の用務員として働いていた大島五郎が生徒の母である千秋に誘われ一緒に八千代塾という学習塾を開く物語です。登場人物それぞれ異なる教育理念を持っていて、その中から生まれる対立だったり、心境の変化が読んでいてとても面白かったです。教育とはどうあるべきなのか深く考えさせられる内容でした。ぜひ読んでみてください。

R・N (八千代東)

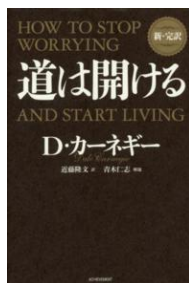


『道は開ける』
D・カーネギー 著

101 ミ

豊かになった今も変わらない悩み。その悩みを克服したいならまずこの本を読んで実践してみましょう。AIと違って人間は忘れやすいから、何度も読むのがおすすめです。経験から学び実践から得た的確な言葉がどれほどの人々に道を示してくれたか。私も人生の岐路で何度も読んだ名著。この本の言葉は78年も前に書かれたと思えないほど心に沁み渡ります。本との出会いで道は開きます。

SAITO (八千代)



『耳が聞こえないメジャーリーガー
ウィリアム・ホイ』
ナンシー・チャーニン 著

102 ミ

耳が聞こえないウィリアム・ホイは困難を乗り越えメジャーリーガーとして活躍した。彼が提案したジェスチャーは、今も野球の審判が使うサインの原型となっている。障がいがあっても工夫と努力で道を切り開けることを教えてくれる、勇気と希望に満ちた一冊。

FURUMAI (八千代)



『夢をかなえるゾウ』
水野 敬也 著

103 ミ

ユーモラスな神様ガネーシャが主人公に課す課題を通じて、目標達成や慣習づくりのコツを楽しく学べる自己啓発小説です。高校生に響く軽快な文体と実践的なアドバイスが魅力で、夢や将来を考えるきっかけに最適。読みやすく、笑いながら自分を変えるヒントが得られる一冊です。

WADA (八千代)



『容疑者Xの献身』
東野 圭吾 著

104 ヨ

ドラマ、映画化されたガリレオシリーズの作品です。「愛」という理論的ではない感情を天才数学者が描く物語です。多くの人物の感情が入り交ざった本格的なミステリー小説です。もちろん天才同士の緻密なやりとりは引き込まれます。愛する人への「献身」、子供への「献身」、友人への「献身」、たくさんの登場人物の「献身」が描かれています。読むたびに新しい感じ方を発見させられます。本が苦手な人はまず映画から見てみてください。

S.O (八千代西)



『夜が明けたら、
いちばんに君に会いに行く』
汐見 夏衛 著

105 ㊦

このタイトルを聞いて皆さんは何を感じましたか？
わたしはなぜ夜が明けたらなの？と思いました。会い
に行きたいなら会いに行けばいいのに、むしろ夜のほ
うがいいのにも思いました。でもこの本を読めばそ
の理由がわかります。

今まで関わりがなかったのに実はとても大切だっ
た人、あなたにもいませんか？この本を読んでそんな
不思議な感覚に浸ってみてください。

NAKARURA(八千代)



『夜と霧』
フランクフル 著

106 ㊦

『夜と霧』は、ナチス・ドイツによるホロコースト(組織
的な大虐殺)という悲劇の中で生きのびた精神科
医フランクフルが、自らの体験をもとに書いた本です。

この本は、どんなにつらい状況でも、人は生きる意
味を見つけることができる。そんな力強いメッセージ
を私たちに伝えています。苦しみの中でも希望を持
ち、自分の心のあり方を選ぶことができるという、人
間の強さと尊厳について考えさせられる一冊です。

T.Y(八千代西)



『夜と霧』
フランクフル 著

107 ㊦

「生きることの意味」ってなんだろう？倫理の教
科書では、この本が紹介される。著者のフランク
フルはナチスドイツの強制収容所を生き抜いた心
理学者。

なぜ彼は心を壊さずに生き抜けたのか？どん
なに過酷でも生き抜いた人々は、何を考えてい
たのか？彼の描く残酷で真剣な人生の記録は、
きっとあなたに生きる意味のヒント、そして希
望を与えてくれるはず。読みやすい文体でコン
パクトな一冊。

Y.M(八千代東)



『夜のピクニック』
恩田 陸 著

108 ㊦

この物語の舞台はある高校の伝統行事である
「歩行祭」。これは夜も徹して80km歩くというもので
あった。主人公である高校3年生の甲田貴子と西脇
透はクラスメートでありながら普段はお互いしゃべっ
たこともない関係だった。しかし二人の間には「誰に
も言えない秘密」があった。そんな二人が最後の「歩
行祭」を通して仲間たちとともに語り合う。二人の関
係はどう変化していくの!?The青春な小説です。ぜ
ひ読んでみてください！

MIREI(八千代)



『リセットする力
「自然と心が強くなる」考え方 46』
酒井 宏樹 著

109 リ

弱気で人見知りな性格の彼が、フランスの強豪マルセイユで不動の地位を築くまで実践してきた独自のメンタル術を初公開した一冊。本書では、困難やプレッシャーに直面した際に「くらべない、気にしない、引きずらない」ことを哲学とし、失敗を恐れずポジティブに捉える具体的な考え方 46 個を紹介。僕はこの本を読んでメンタルが強くなり、successしようと思いました。success!

SATO (八千代)



『流星の絆』
東野 圭吾 著

110 リ

ミステリーとヒューマンドラマが融合された傑作です。幼い頃に両親を殺された三兄妹が、犯人を突き止め復讐を誓う姿を描いており、謎解きの面白さだけでなく、家族の絆や過去との向き合い方に深く心を打たれます。登場人物の心理描写が繊細で、読者は感情移入しながら物語に引き込まれて行きます。特に物語の終盤、真実が明らかになる瞬間の衝撃と、兄妹それぞれの成長には胸を打たれます。

感動とサスペンスが交錯する本作は、ミステリー初心者にもおすすめです。ドラマ化もされている超有名作品なので是非読んでほしいです。

SUGA (八千代)

